

## CAD上で数量拾いを行うマニュアル

ダウンロードしたsuryohiroiフォルダーを解凍し、全てのファイルをコピーしてJWWフォルダーにペーストしてください。

JWWとEXCELのパスの確認、JWWはC:\の下にjwwというフォルダー名で置く、次にEXCELは下記のパスになっているか確認する  
C:\Program Files\Microsoft Office\Office15\root\Office15\EXCEL.EXE

上記が私のEXCELのパス、これが違っていると動作しません。この場合各パッチファイルの下の記述を変更しなければなりません。

```
REM #9
REM          この部分
:EXE
C:\Program Files\Microsoft Office\Office14\EXCEL.EXE "C:\jww\拾い.xmlm"
```

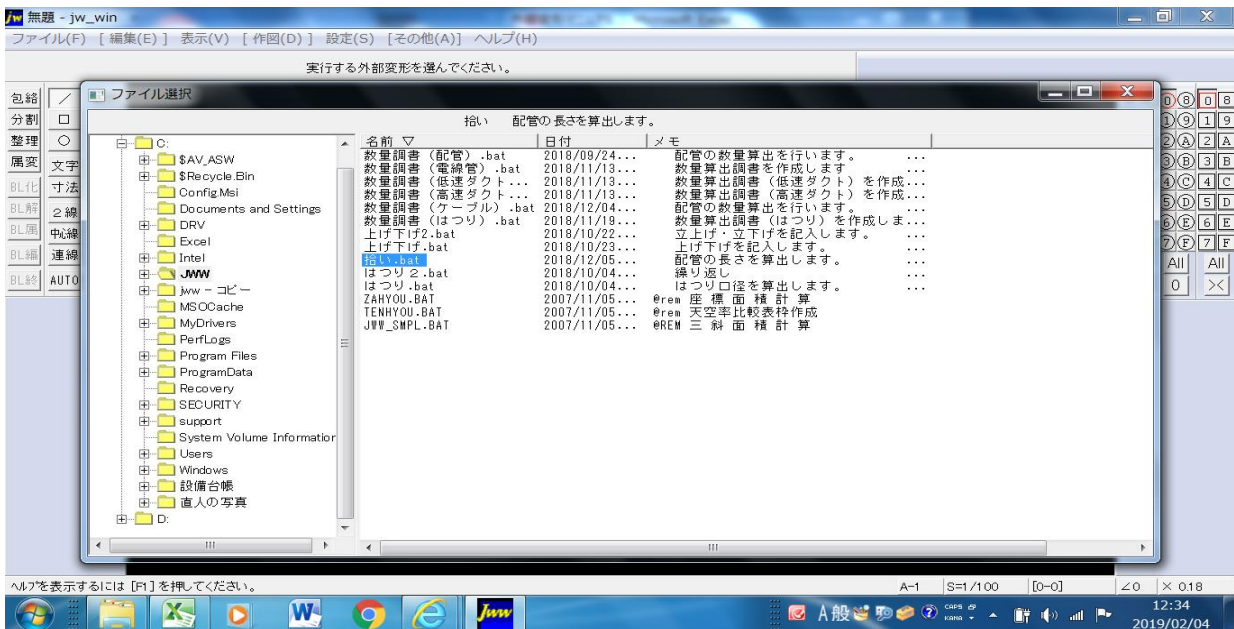
GOTO END

EXCELはマクロを使用していますので、マクロセキュリティを有効にする。ファイル>オプション>セキュリティ>セキュリティセンターの設定>マクロの設定で行う。

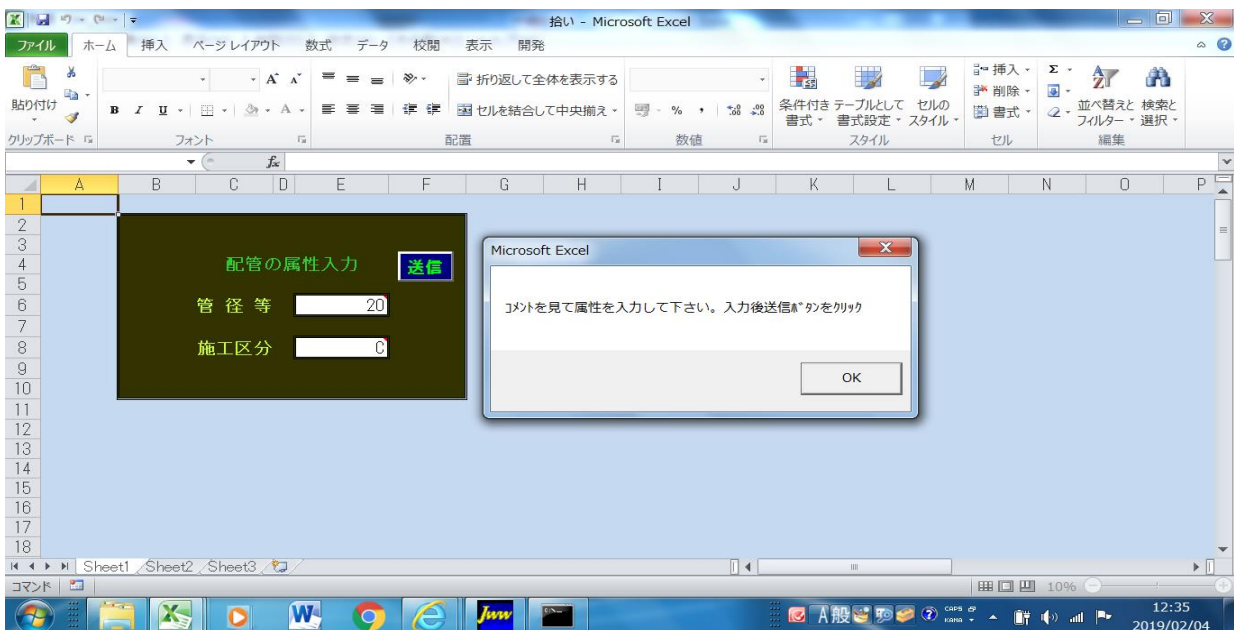
始める前に元CADをJWWに変換（文字化けしても気にしない。縮尺だけ気にする。）して下さい。  
ファイル数は多くなるが、1ファイル1拾い図にする。（1階衛生拾い図とし、レイヤ0に平面図、レイヤ1に給水拾い、レイヤ2に排水拾い等にする。）

[数量拾い説明書]. Pdfを読んでください。もし、操作方法がわからない場合は下記アドレスに連絡ください。  
[igatan@crs.view21.net](mailto:igatan@crs.view21.net)

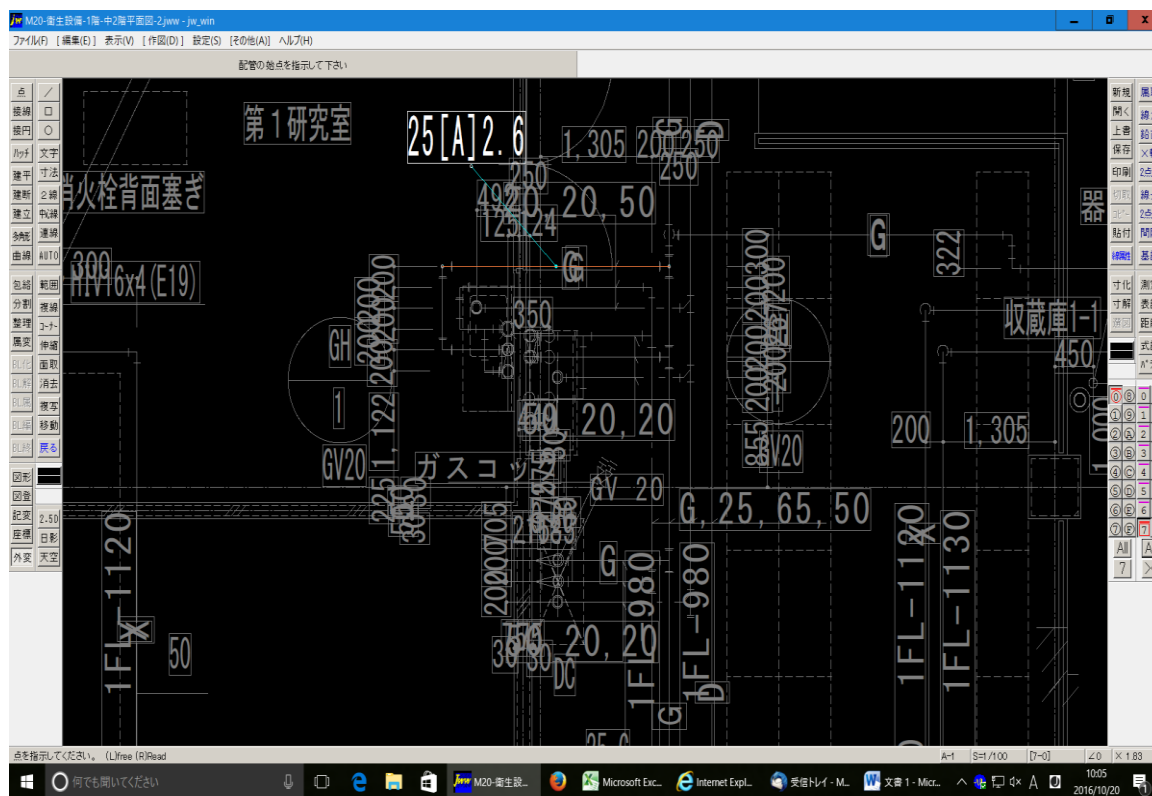
1. それでは拾いを始めましょう。JWWの「その他」→「外部変形」→「拾い.bat」をクリック



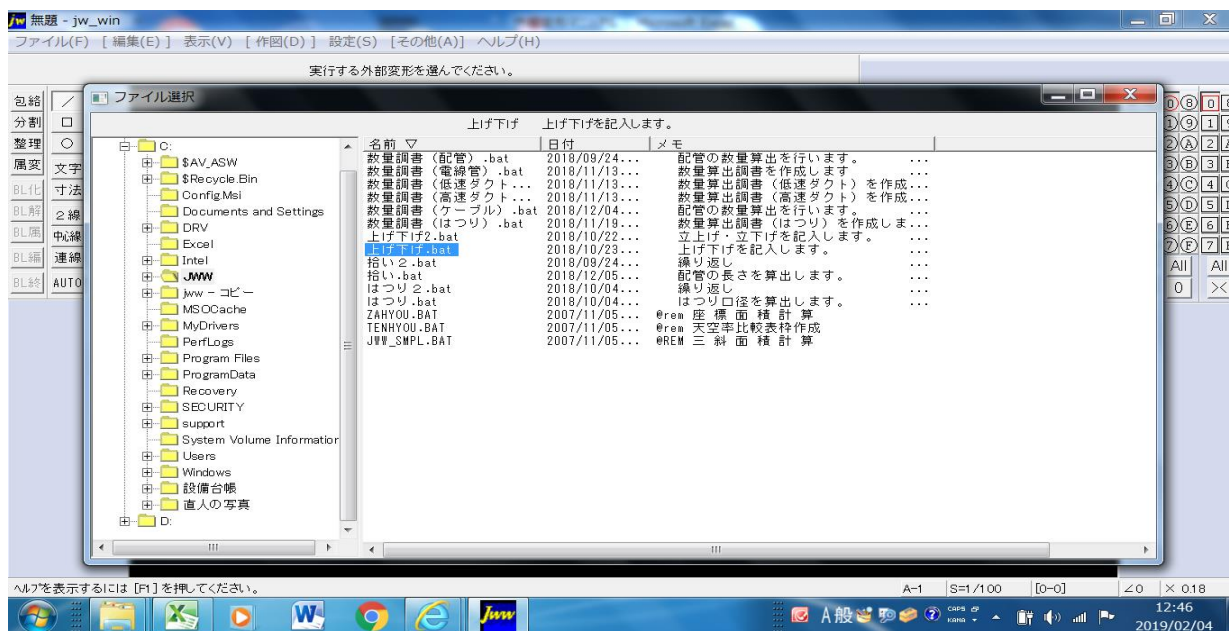
2. Excelが立ち上がり、下記の画面が現れるので、拾うとこの配管の属性（管径と天井内等）を入力する。属性が変わるたび最初から行う



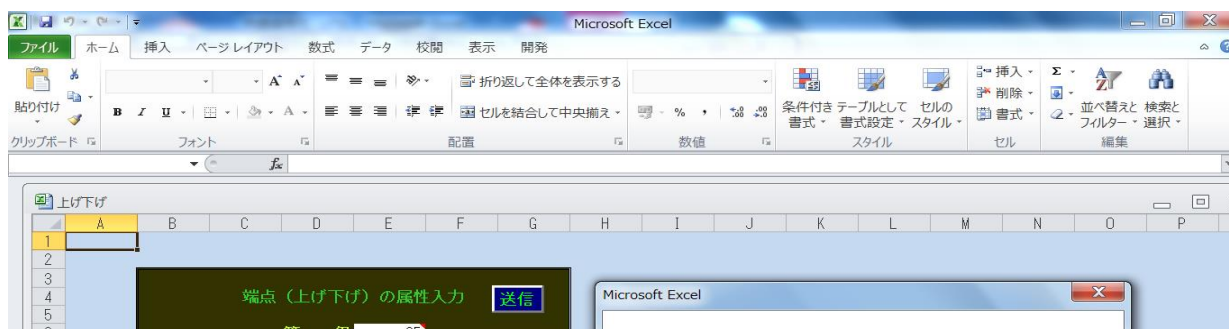
3. 拾おうとしている配管の始点と終点をクリックし文字の書き出し位置をダブルクリックする。（下記の図面では管径25、施工場所は天井内で長さが2.6m）

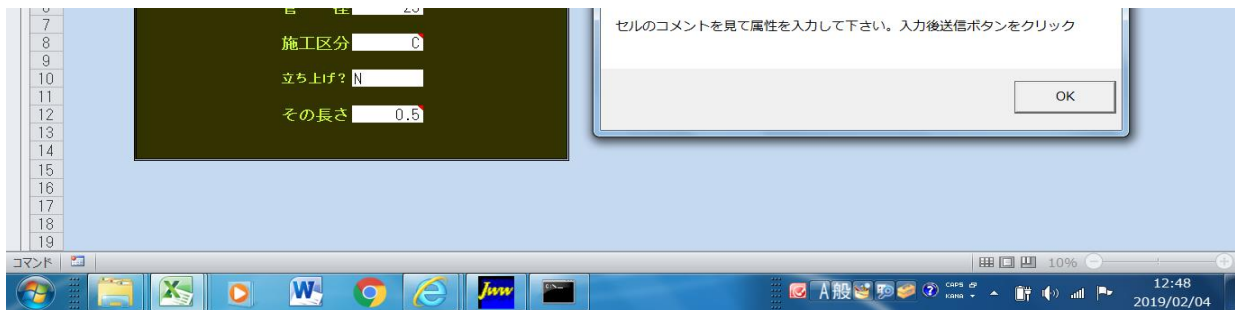


4. 直管部分を拾い終わったら次は立上げ立下げ（上げ下げ）を拾います。

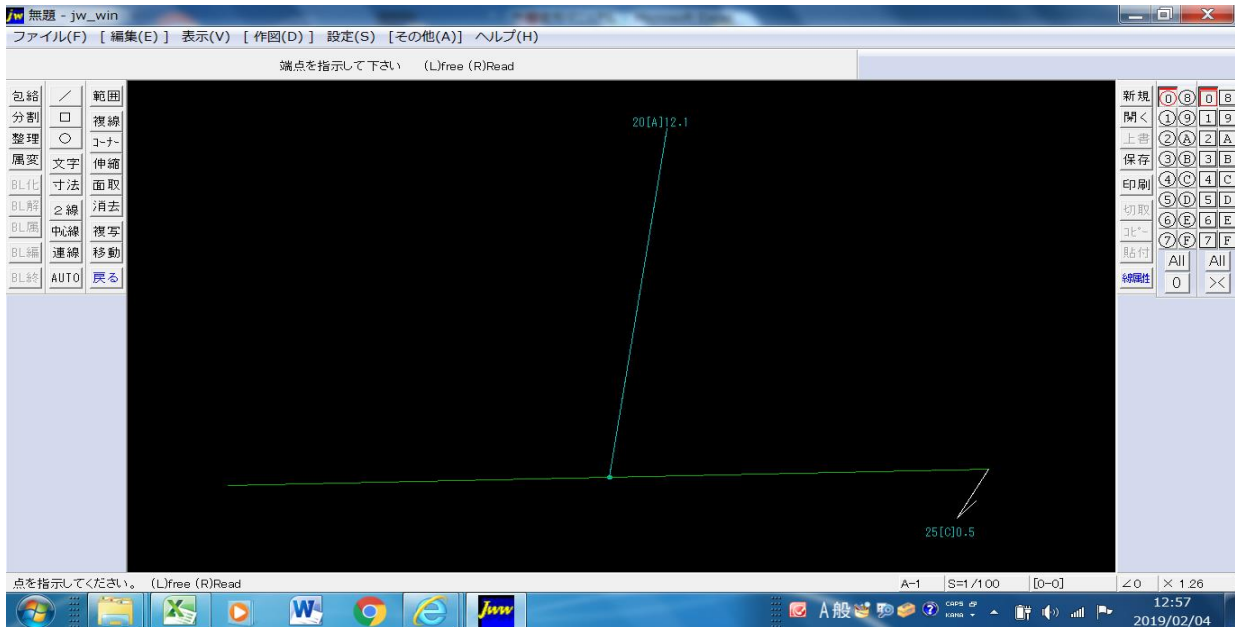


5. 上げ下げをクリックすると下配画面が現れます。直管と同様に属性を入力してください。

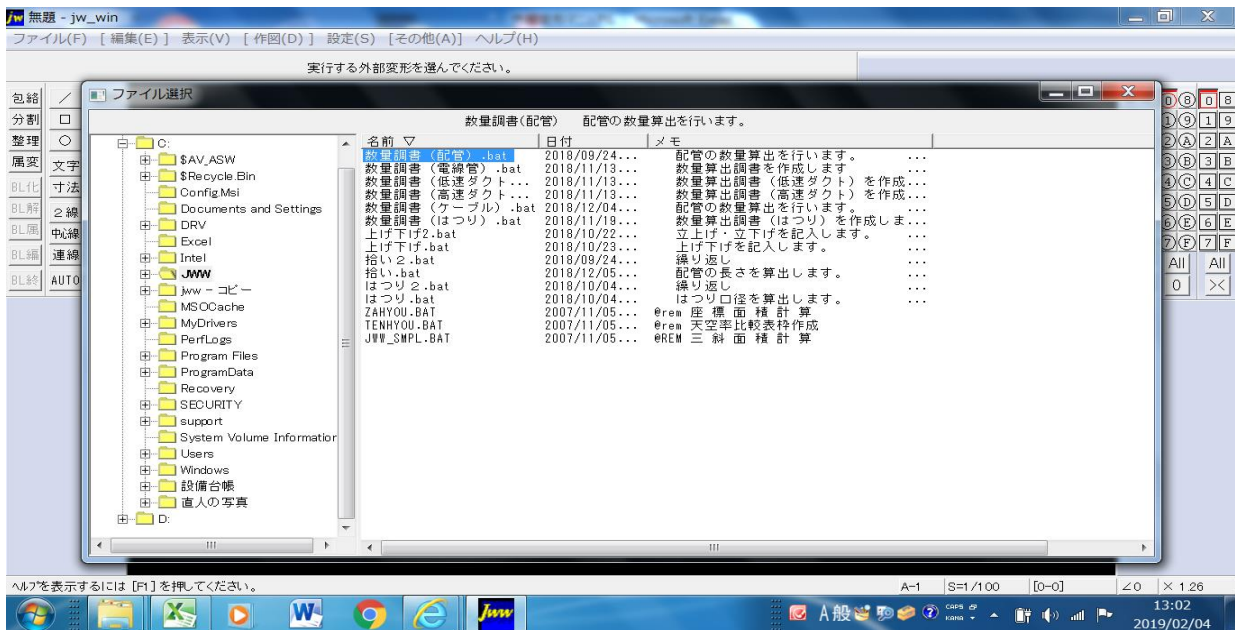




6. 直管の端点をクリックすると下図のように先ほど入力した属性が書き出されます。

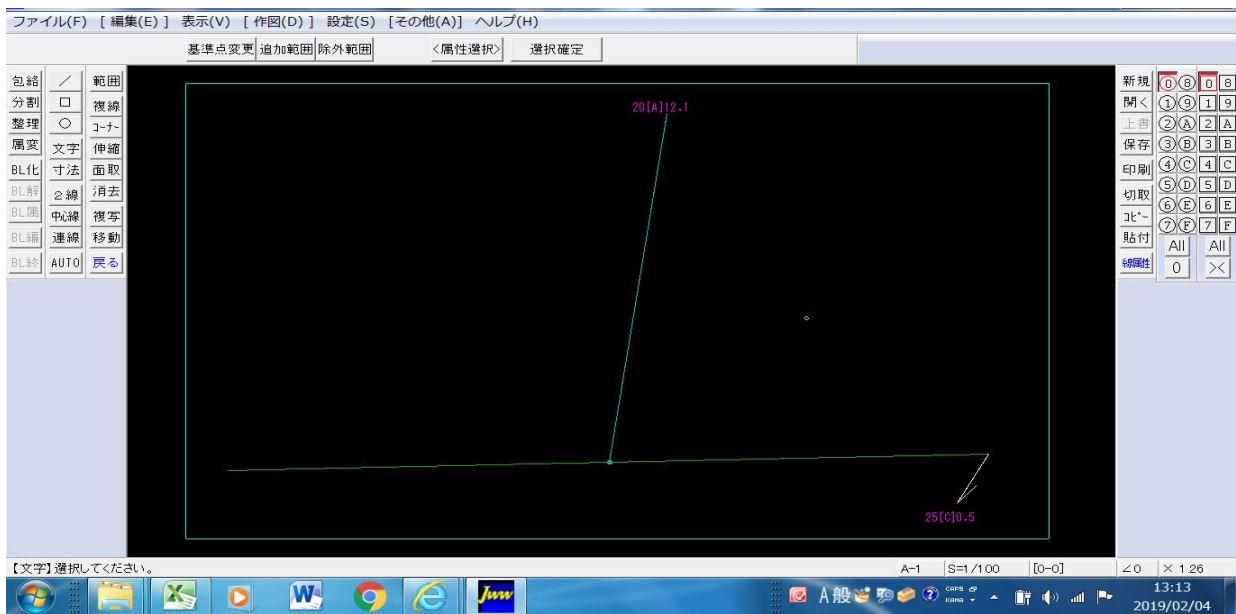


7. 拾い終わったら、「その他」→「外部変形」→「数量調書（配管）」をクリック

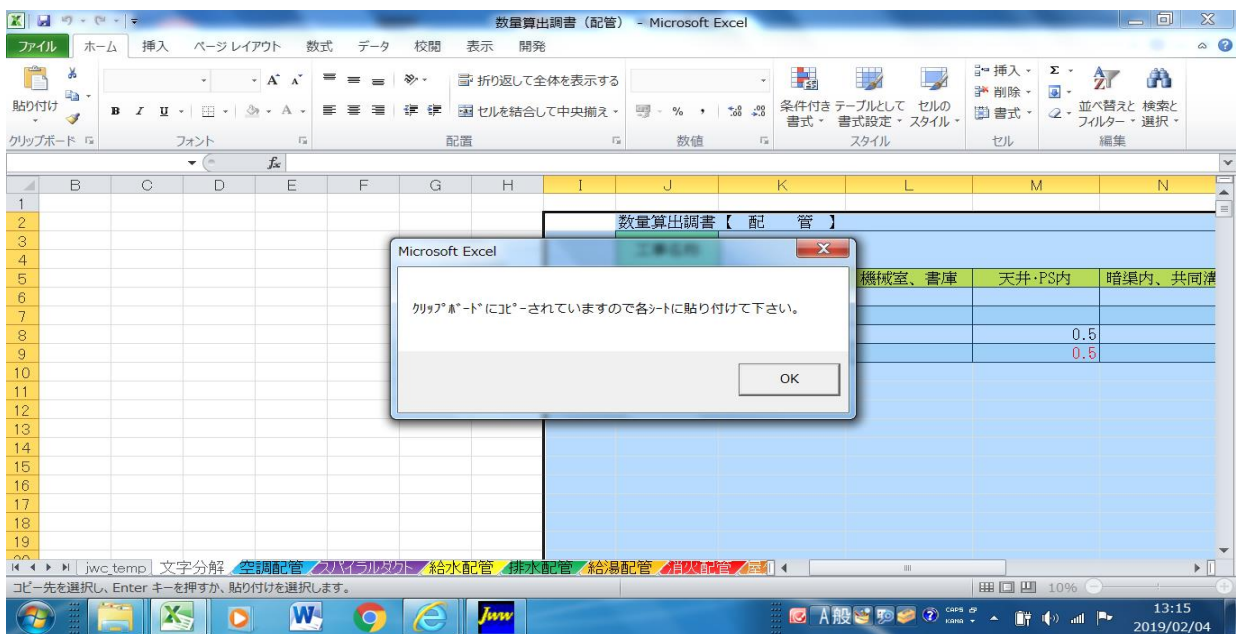


8. 全体を囲ったら「選択確定」ボタンをクリックし、図面上でもう一度クリック





9. Excel（数量算出調査（配管）.xlsm）が立ち上がり、マクロにて図面上の配管を一発集計（1,000個まで）を行い、数量算出調査が作成される。  
 クリップボードにデータがありますので各シートに貼り付けて下さい。貼り付けたら終了するかの意が出ますが、終了ボタンを押すと上書き保存されます。  
 別名ファイルにすると動作しなくなりますので、一連の作業が終わったらファイル名を変えてください。もし同時作業したい場合はバッチファイルの書き換えが必要です。



10. はつり（ダイヤモンドカッター）も似たように属性入力（管径、保温厚、壁厚）を行い個数を算出します。